

一、「マラリア」ノ蔓延状態

大正五年以降縣下ニ發生シタル「マラリア」患者ハ左表ノ通支那、朝鮮、臺灣其ノ他ノ地方ヨリ歸來シテ發生スルモノ多ク土着性ノモノハ殆ト稀ニシテ蔓延シタルノ傾向ナシ

二、「マラリア」ニ關スル調査成績

從來縣下ニ於テハ本病流行ノ傾向ヲ認メサルヲ以テ特ニ調査シタルコトナク成績トシテ徵スルモノナシ

三、「マラリア」病竈地ノ狀況ト住民ノ保健状態

縣下ニ發生スル患者ハ多ク散發性ニシテ一區域ニ止マルカ如キコトナキヲ以テ特ニ病竈地ト認ムヘキ地方ナク患者モ亦多ク一人ニ止マリ轉歸スル状態ナルヲ以テ延テ住民ニ傳播スルコト稀ナリ隨テ一般ノ保健状態ニ何等ノ影響ナキカ如シ

四、「マラリア」病竈地ト無病地方トニ於ケル徵兵合格率ノ比較

前項ノ通り「マラリア」病竈地ト認ムヘキ地方ナク從テ徵兵合格率ヲ計上スルノ資料ヲ得ス

五、「マラリア」ノ豫防撲滅ニ對ス施設

ナシ

六、「マラリア」豫防撲滅事業ニ要スル經費

豫算ノ編成ナシ

七、將來ノ計畫

將來「マラリア」患者發生ノ場合ハ其ノ狀況ニヨリ技術員ヲ派遣シテ其ノ地方ニ於ケル「アノフェレス」蚊ノ存在ニ注意スルハ勿論其ノ他適切ナル豫防方法ヲ講シテ撲滅ヲ圖ラントス

「マラリア」患者各年別調

市郡別	年次			
	大正五年	大正六年	大正七年	合計
長崎市	六一	五六	五二	一五九
佐世保市	一八〇	八四	五九	三二三
西彼杵郡	一〇	一	一	一二
東彼杵郡	九	一	一	一一
北高來郡	三	七	九	一九
南高來郡	三	七	九	一九
北高來郡	三	七	九	一九
南高來郡	三	七	九	一九
北松浦郡	三	七	九	一九
南松浦郡	三	七	九	一九
北松浦郡	三	七	九	一九
南松浦郡	三	七	九	一九

南	松	浦	郡	四六				三四
上	岐	郡						
下	縣	郡						
合	計			三二八	二二九	三二一		
							五五	七七

備考

患者ハ原産検査ヲ爲シ確診セシモノニアラズ臨床診斷ニ依リシモノ
 長崎市ニ於ケル發生患者ハ散發性ノモノニシテ一區域ニ止マレ病竈地ナシ多クハ臺灣、支那、朝鮮其ノ他ノ病竈地ヨリ販來シ
 テ發生セルモノナリ
 西彼岸郡ニ於テハ重ニ崎戸村、松島村ニ發生シ其他ノ町村ニハ殆ト皆無ナリ崎戸、松島ノ兩村ハ炭坑所在地ニシテ池沼及田浦
 等無ク飲料及使用水ハ他ヨリ供給ヲ受ケツ、マル狀況ナリ而シテ本病ノ發生ハ同炭坑ニ出入スル坑夫等ニ多キヲ以テ見レハ已
 ニ他ニ於テ病毒感受シテ入込ミ來レルモノアルカ如シ
 北高來及南高來郡内ニ發生ノ患者ハ臺灣ヨリ販來セシモノ大部分ヲ爲シ土着ノモノ、發生ハ稀ナリ
 南松浦郡ニ於テハ富江、玉ノ浦ヲ除ク散在地ニシテ支那、朝鮮、臺灣ヨリ販來シタルモノニ發生ス而シテ富江、玉ノ浦ノ兩村
 ニ於テハ多ク夏期ニ發生シ土着性ノモノモアルカ如シ講究中

(八) 新潟縣

一、「マラリア」ノ蔓延狀態

本縣ニ於ケル「マラリア」患者發生地域ハ頗ル廣汎ナリ而シテ年々特ニ多數ノ患者ヲ見ル所ノミニテ
 モ中、西、南、北蒲原ノ四郡ニ亘ル而シテ之等ハ何レモ信濃川流域ヲ中心トシ地形平坦低濕ニシテ
 洪水、池沼多ク加フルニ屢々河水氾濫ノ厄ヲ見ル地方ニシテ患者數ノ關係諸別表ノ如クナリ反之
 南、中魚沼及中頸城ノ如キ山間部ニハ甚タ稀少ナリ

二、「マラリア」ニ關スル調査成績

「マラリア」患者調査成績ハ左表第一號ニ示スカ如シ而シテ調査方法トシテハ「マラリア」調査用紙ヲ
 作製シ各警察官署ヲシテ所轄内公私立病院及開業醫師ニ夫々「マラリア」調査小票ヲ配布シ各三ヶ年
 間診療セル「マラリア」患者ニ就キ記入報告セシメ之ヲ基礎トシテ該病蔓延狀況其他ヲ調査スルヲ得
 タリ乍然縣下ノ「マラリア」患者ハ殆ント總テ輕症ニシテ醫治ヲ受クルニ至ラス民間藥其他ノ方法ニ
 ヲリテ治療スル者多キカ爲メ正確ナル患者數ヲ調査シ得サリシハ甚タ遺憾トスル所ナリ

三、「マラリア」病竈地ノ狀況ト住民ノ保健狀態

縣下「マラリア」流行ノ稍々顯著ナル病竈地左表第二號ニ示スカ如ク中、西、南、北蒲原四郡ナリ此
 等地方ハ信濃、阿賀ノ兩川貫流シ灌漑ノ便ニ富ムモ土地卑濕加フルニ年々數回ノ河川氾濫ヲ來タシ
 然ラサル時ト雖モ四季ヲ通シテ田面ニ滯水ノ絶ユルコトナク諸所池沼散在シ常ニ濕潤ヲ極ムル關係

上蚊族發生ノ因ヲナシ從テ別表第一號ノ如ク農民ニ多數ノ患者ヲ見ル殊ニ西、南兩蒲原郡ノ如キ本病患者ノ多キ地方ニ於テハ「マラリア」死亡者數ニ於テ殆ント過半數ヲ占メ左表第三號ノ如ク年々ノ總死亡數モ他郡ニ比シテ多數ヲ算スル狀況ニ在リ反之南、中魚沼兩郡、中頸城郡ノ如キ土地高層ナル山間地ニ在リテハ「マラリア」患者甚僅少ニシテ住民ノ保健狀態モ概シテ良好ナリ又惡性「マラリア」患者及死亡者モ非常ニ少數ナカラ年々生スル狀態ニ在リ

四、「マラリア」病竈地ト無病地方トニ於ケル徵兵合格率ノ比較

左表第四號ノ如ク「マラリア」患者八%以上ヲ算スル病竈地ニ於ケル徵兵合格率ハ他郡ニ比シ甚ク劣リ殊ニ西蒲原郡ノ如キハ縣下最劣等ノ成績ヲ呈セリ反之該病發生甚ク少ナキ中、東頸城兩郡ノ徵兵合格率ハ最優良ナル狀態ニ在リ

五、「マラリア」豫防撲滅ニ對スル施設

本縣ハ「マラリア」患者ハ比較的多數ナルモ冬季間ハ殆ント絶無ニシテ主ニ夏季ニ於テ信濃川沿岸及ヒ佐渡郡相川鑛山等ノ如キ比較的潤濕ノ地ニ多發ス而シテ罹病者モ多クハ輕症ナル隔日熱ニシテ短期間ニ治癒シ本病ノタメニ死ノ轉歸ヲ取ルモノ極メテ稀ナルニヨリ一般地方民ハ本病ニ對スル恐怖警戒ノ念乏シ

如斯狀況ナルヲ以テ豫防撲滅策トシテ市町村又ハ衛生組合等ニ於テ格別ナル施設ヲナシアルモノナシ只毎年患者多數生スル地方ノ人民ハ本病毒ノ蚊刺ニヨリテ感染スルモノナルヲ知リ蚊ノ發生時期ニ於テ各自ニ下水溝渠又ハ水溜等ニ石油ノ産出地タル本縣ニ於テハ材料ノ豊富ニシテ且ツ安價ナル石油ノ原油ヲ撒布シテ其幼蟲ノ發生ヲ防止スル者アルモ之レカ實施者ハ至テ少數ナル故一般の豫防ノ奏効ヲ期シ得ヘキ程度ノモノニアラス

縣當局ニ於テモ主ナル蔓延地域ハ信濃川ノ沿岸一帶ノ地方ニシテ夏秋ノ候河水氾濫ノ際ハ河水逆流シテ田畑面ヲ沈ムルコト毎年數回ニ及ヒ然ラサルトキト雖モ該地方ハ四季ヲ通シテ田面ニ滯水ノ絶ユルコトナキ洪水地ニシテ其ノ面積廣大ナル故目下ノ處ニ於テハ本病原體ノ媒介者タル蚊ヲ撲滅スヘキ施設ヲナスニ足ル可キ多大ノ經費ハ縣民ノ負擔ニ堪ユル能ハサルノミナラス他ニ幾多ノ急施事業アルヲ以テ未タ何等ノ施設ヲナセシモノナシ

六、「マラリア」豫防撲滅事業等ニ要スル經費關係

前記第五項ノ狀況ナルヲ以テ縣市郡町村等ニ於テ本件ニ關シ經費ヲ要セシコトナク本年度ノ豫算ニモ計上シアラス各個人ニ於テ石油ノ原油ヲ撒布スル者アリト雖モ經費關係ヲ云々スルカ如キ程度ノモノニアラス

七、將來ノ計畫

「マリアア」發生地帯ハ前述ノ如ク信濃川沿岸ノ廣大ナル面積ナルヲ以テ本豫防的計畫ヲ實施スルニ當リテハ頗ル多大ノ經費ヲ要スルモ大正十年ニ至ラハ大河津分水工事落成スル故現今被害多キ地域ニアル信濃川ノ水量大ニ減少シ爲メニ湛水地ハ排水上多大ノ利便ヲ蒙ルニヨリ努メテ同地方ニ於ケル湛水池ノ改良乾固ヲ圖リ其他一般町村ニ於ケル下水溝渠水溜等ノ改造及ヒ夏期ニ於ケル石油ノ原油撒布等ヲ督勵シテ蚊族ノ發生ヲ防キ傍ラ屢々衛生講話ヲ開催シテ是等地方民ノ「マリアア」ニ關スル豫防警戒上ノ智識ヲ啓發シ尙姑息的ナカラ縣ニ於テ本病ノ特效藥タル「ひにん」ヲ丸劑トナシ容器ニ用法ヲ詳記シテ豫メ縣下各警察官署及ヒ巡查駐在所等ニ配布シ置キ實費ヲ以テ各患者ニ分配スル等ノ方法ヲ實施スルモ一方法ナリト信シ考慮中ニ屬セリ

八、其ノ他參考トナルヘキ事項

本病患者ハ從來醫師ノ診療ヲ受クルモノ至テ尠ナク藥店ヨリ規尼涅劑其ノ他普通賣藥等ヲ買ヒ之ヲ服用シテ素人療治ヲ行フモノ最モ多シ
其他種々ナル民間藥ヲ服スルモノ祈、呪等ヲナスモノ神社ノ守札、神前ノ水ヲ飲ム等千差萬別ノ方法ヲ行ヒ以テ治療ニ努ムルモノアルモ一トシテ効ヲ奏スルト思料シ得ルモノ無シ

然レトモ只參考ノ爲メ本縣一般人民ノ本病ニ對スル觀念及ヒ治療ノ方法等ヲ左ニ列記スヘシ

一、藥物療法別

- (1) 患者ハ多ク規尼涅ヲ服シ醫師ノ治療ヲ受クルモノ少ナシ
- (2) アンチピリン丸ヲ服スルモノ
- (3) 賣藥ヲ服用スルモノ
- (4) 家傳藥ヲ服用スルモノ
- (5) サフラン酒ヲ服用スルモノ
- (6) 規尼涅ノ服用時ヲ誤リ無効トナシ醫療ヲ乞フモノアリ
- (7) 瘧退丸ヲ服スルモノ

二、民間藥

- (1) 鶏卵ヲ夜晒シト爲シ服用スルモノ
- (2) 蚊ノ拔殺ヲ服用スルモノ
- (3) 鶏卵ヲ夜晒トシ日出前ニ食スルモノ
- (4) 「クモタコ」ノ乾燥シタルモノヲ食スルモノ
- (5) 狐ノ舌ヲ煎シテ飲ムモノ

- (6) 金屬類ノ屑ヲ容器ニ入レタ儘屋根ノ上ニ置キ人知レヌ飲ムモノ
 - (7) 鹽ノ「ニカリ」ヲ夜晒ニシテ未明ニ飲ムモノ
 - (8) 唐藥ヲ夜晒シテ未明ニ飲ムモノ
 - (9) 「まむし」ノ干シタルモノヲ用ユルモノ
 - (10) 按摩膏ヲ頸部ヨリ臀部マテ脊部ニ十字形ニ貼スルモノ
 - (11) ドクダシニ本鶏卵一ヶ水一合ヲ茶碗ニ入レ之ヲ夜露ニ晒ラシ發熱日ノ朝其卵ヲ煮テ食スルモノ
 - (12) 乾「ミ、ツ」ヲ煎シテ飲用スルモノ
 - (13) 蒜ヲ煮又ハ焼テ食スルモノ
- 三、呪
- (1) 葬式ニ供ヘタル菓子又ハ團子ヲ食スルモノ
 - (2) 高野山ノ土砂又ハ水天宮ノ符ヲ呑ムモノ
 - (3) 湯殿山ノ池ノ水垢ヲ乾シタルモノヲ水ニ溶解シテ服用スルモノ
 - (4) 長野下戸隠山、九頭龍權現ノ符(飯粒)ヲ食スルモノ
 - (5) 眞野御陵ノ松ノ木ノ實ヲ煎シ服用スルモノ

- (6) 種々ナル呪ニ依リ治療ヲ爲ス慣習盛ニ行ハレツ、アリ
- (7) 茗荷ノ根ニ針ヲ差シ治シ下サラハ針ヲ抜クヘシト告クルモノ
- (8) 梅ノ木ヲ繩ヲ以テ縛シ治シ下サラハ解クヘシト告クルモノ
- (9) 灰ノ上ニ兩足ノ形ヲ印シ其痕ニ灸ヲ立ツルモノ
- (10) 摺鉢ヲ冠リ其上ニ灸ヲ立ツルモノ
- (11) 馬ノ腹下ヲク、ルモノ
- (12) 蛇ノ脱皮ヲ背ニ負ハスモノ
- (13) 患者ヲシテ不意ニ驚カシムルコト
- (14) 人ノ知ラサル間ニ或種ノ草木ニ針ヲ刺スコト
- (15) 夜間患者ノ睡眠中ニ其背部ニ灸ヲ立ツルモノ
- (16) 一厘錢ヲ發熱當日ノ朝携帶シテ附近ニ立チ廻リ之ヲ落シテ病ヲ落スト稱スルモノ
- (17) 患者ノ衣類ヲ交通路ニ持チ出シ之ヲ他人ニ拾ハシムレハ「マラリア」ハ其人ニ傳染スト云フ
- (18) 大釜ヲ桑ノ木ノ下ニ持チ出シ錢ヲ冠セルモノ
- (19) 大般若經ノ轉讀又ハ經本ヲ奉戴スルモノ
- (20) 夜間墓地ニ至リテ石碑ヲ倒シ來ルモノ

- (21) 首ニ蛇ヲ卷キ付クルモノ
- (22) 寢具ノ下ニ患者ノ知ラヌ様乃物ヲ入レ置クコト
- (23) 杯ニ酒ヲ入レ之ニ朝日ヲ映セシメ其影ヲ飲ム
- (24) 祖先代々ノ菩提ヲ弔フモノ
- (25) 鍼治ヲナスモノ
- (26) 不意ニ蛇ノ姿ヲ見セルモノ
- (27) 蛇ノ脱皮ヲ寢室ニ入レ置クコト
- (28) 墓ノ卒塔婆ヲ寢室ニ入レ置クモノ
- (29) 足部ニ灸點ヲ施スモノ
- (30) 十字街路ノ中央ニ日出前轉倒シテ後ロヲ振り返ラヌ歸宅スルモノ
- (31) 酒ヲ徳利ニ入レ夜間戸外ニ晒シテ服スルモノ
- (32) 患者自家ノ庭ノ角石ヲ倒シ治シ呉ルレハ起シヤルト云フテ立ち去ルモノ
- (33) 患者發熱日ノ未明ニ叉路ニ至リ人ニ見付ケラレヌ様ヲカリレノ神ヲ三唱シ私ハ他ニ用アリテ
此處ヲ去ルヘシ神ハ暫ク此處ニ待タレヨト小聲ニ言フテ歸宅スルモノ
- (34) 鍼灸治ノ治療ヲ受ケ全治スルモノ頗ル多シ

- (35) 剃刀ヲ枕ノ下ニ入レ臥床スルモノ
- (36) 水中ニ飛ヒ込ムモノ
- (37) 氏神ニ參拜シ賽錢ヲ遺棄シ歸ルモノ
- (38) 地藏尊ニ團子ヲ上ケ參拜シ其下リヲ食スルモノ
- (39) 患者不動ノ儘舌ニテナメ得ル部分ニ灸ヲ立テルコト
- (40) 檜ノ木ノ根ニ酒ヲカケ之ヲ飲用スルモノ
- (41) 患者ヲ直立セシメ兩足趾ヲ揃ヘ其合セ目ニ灸ヲ立テルモノ
- (42) 自己ノ信スル社前ニ額ヲ付ケ祈禱ノ後「サンヘイシ」(米俵ノ兩方ニアツルモノ)ニ頭ヲ付ケ三
回宙返リスルモノ
- (43) 天理教ノ水ヲ飲用スルモノ
- (44) 石地藏ヲ縛シ治シ呉ルレハ解クト云フモノ
- (45) 「モツコク」ノ葉ヲ患者ニ敷カシムモノ
- (46) 馬芹ノ葉ヲ枕ノ下ニ入レ置クモノ
- (47) 鶏卵ヲ煮テ夜晒トナシ翌朝之ニ「キナコ」ヲ付ケテ食スコト
- (48) 患者ノ知ラヌ様着衣ニ蛇ノ「キン」ヲ入レ置クコト

- (49) 手拭ヲ四ツ折トシテ冠リ更ニ摺鉢ヲフセ灸ヲ點スルコト
 - (50) 足ノ土踏マスニ灸ヲ點スルコト
 - (51) 算盤ノ五玉ニ灸ヲ据エ治シ吳レト云フテ五玉ヲ拂フコト
- 四、祈リ

- (1) 神社ニ參詣シ平癒ヲ祈リ後ヲ見スシテ歸ルモノ
 - (2) 早朝神社ニ參詣シ草履ヲ其場ニ脱シ歸ルモノ
 - (3) 藥師ノ身體ヲ手拭ニテ撫テ其手拭ヲ以テ患者ノ身體ヲ拭クモノ
 - (4) 神官僧侶等ニツキ祈禱ヲナスモノ
 - (5) 御嶽、八海山、天理教、優婆塞、地藏尊、氏神、菩提寺、本尊等ニ祈禱ス
 - (6) 御經ヲ僧侶ヨリ繰ツテ貰フモノ
- 五、其他

- (1) 罹病後一定ノ時日ヲ經過スレハ全治スルモノトシ放任シ居ルモノアリ
- (2) 大正六年以降悪性「マラリア」ノ散發スルハ大正五年ヨリ當地方住民ノ臺灣ニ出稼スルモノノ持チ來レルモノニシテ彼地ニ於テ一回罹患セルモノハ經過比較的輕ク然ラスシテ發病スルモノハ經過重シト云フモノアリ

- (3) 本病ニ對シ恐怖ノ感念ヲ抱持スルモノナシ
- (4) 本病患者ハ多クハ醫療ヲ受ク

第一號

(醫師氏名)

「マラリア」(間歇熱、瘧、おこり)患者票			
發病又ハ 檢診年月	大正 年	月	市郡
			町村
ノ種類	悪性「マラリア」(毎日熱) 隔日熱、四日熱	歸轉	職
		全治、死、不明	農、商工、其他
		患者 氏名	性 別
		年齡	男 女
		年	

備考 不用ノ文字ハ抹消スルコト

(新潟縣保健衛生調査用紙)

「マラリア」患者種類別職業別年齢別三ヶ年表 (其一)

病類 別	職業 別	性別	大正四年				計	對患者數 千分比例
			男	女	計	千分比例		
五歲未滿	農	計	一五	一六	三一	一五	九五八・一	
	其他	計	一	一	二			
	商工	計	一	一	二			
	合計	計	一七	一七	三四			
至六歲乃 至十歲	農	計	一五	一六	三一	一五	九五八・一	
	其他	計	一	一	二			
	商工	計	一	一	二			
	合計	計	一七	一七	三四			
至十一歲乃 至二十歲	農	計	一五	一六	三一	一五	九五八・一	
	其他	計	一	一	二			
	商工	計	一	一	二			
	合計	計	一七	一七	三四			
至二十一歲乃 至三十歲	農	計	一五	一六	三一	一五	九五八・一	
	其他	計	一	一	二			
	商工	計	一	一	二			
	合計	計	一七	一七	三四			
至三十一歲乃 至四十歲	農	計	一五	一六	三一	一五	九五八・一	
	其他	計	一	一	二			
	商工	計	一	一	二			
	合計	計	一七	一七	三四			
至四十一歲乃 至五十歲	農	計	一五	一六	三一	一五	九五八・一	
	其他	計	一	一	二			
	商工	計	一	一	二			
	合計	計	一七	一七	三四			
至五十一歲乃 至六十歲	農	計	一五	一六	三一	一五	九五八・一	
	其他	計	一	一	二			
	商工	計	一	一	二			
	合計	計	一七	一七	三四			
至六十一歲乃 至七十歲	農	計	一五	一六	三一	一五	九五八・一	
	其他	計	一	一	二			
	商工	計	一	一	二			
	合計	計	一七	一七	三四			
七十一 歲以上	農	計	一五	一六	三一	一五	九五八・一	
	其他	計	一	一	二			
	商工	計	一	一	二			
	合計	計	一七	一七	三四			
		計	一五	一六	三一	一五		

病類 別	職業 別	性別	大正四年				計	對患者數 千分比例
			男	女	計	千分比例		
五歲未滿	農	計	一五	一六	三一	一五	九五八・一	
	其他	計	一	一	二			
	商工	計	一	一	二			
	合計	計	一七	一七	三四			
至六歲乃 至十歲	農	計	一五	一六	三一	一五	九五八・一	
	其他	計	一	一	二			
	商工	計	一	一	二			
	合計	計	一七	一七	三四			
至十一歲乃 至二十歲	農	計	一五	一六	三一	一五	九五八・一	
	其他	計	一	一	二			
	商工	計	一	一	二			
	合計	計	一七	一七	三四			
至二十一歲乃 至三十歲	農	計	一五	一六	三一	一五	九五八・一	
	其他	計	一	一	二			
	商工	計	一	一	二			
	合計	計	一七	一七	三四			
至三十一歲乃 至四十歲	農	計	一五	一六	三一	一五	九五八・一	
	其他	計	一	一	二			
	商工	計	一	一	二			
	合計	計	一七	一七	三四			
至四十一歲乃 至五十歲	農	計	一五	一六	三一	一五	九五八・一	
	其他	計	一	一	二			
	商工	計	一	一	二			
	合計	計	一七	一七	三四			
至五十一歲乃 至六十歲	農	計	一五	一六	三一	一五	九五八・一	
	其他	計	一	一	二			
	商工	計	一	一	二			
	合計	計	一七	一七	三四			
至六十一歲乃 至七十歲	農	計	一五	一六	三一	一五	九五八・一	
	其他	計	一	一	二			
	商工	計	一	一	二			
	合計	計	一七	一七	三四			
七十一 歲以上	農	計	一五	一六	三一	一五	九五八・一	
	其他	計	一	一	二			
	商工	計	一	一	二			
	合計	計	一七	一七	三四			
		計	一五	一六	三一	一五		

マラリア患者				日		
合計	其他	商工	農	合計	其他	商工
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
二八二六	一七九八	七四三	三二一七	一、五九七	七四三	八五四
七二七	二〇〇	一七九	三二一	一、五九七	七四三	八五四
二二八	三三七	二九一	七四三	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
九二六	三三七	一八五	五〇七	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
七六一	一八八	一〇五	五〇七	九二六	三三七	一八五
三〇	七二五	三二一	二〇九	五八	一〇六	一〇六
一九八	六三三	五二三	八三五	三三	一六〇	一六〇
一四〇	一一	五二三	八一一	一八五	九三	九三
五三二	一一	一一	三二一	八四	四三	四三
五〇〇	二五七	九三	二八三	八、三〇〇	四、〇〇〇	四、三〇〇
五、六				九四二		

隔	別	業	職	年		計	對患者數 千分比例
				年	別		
農	計女男	性	別	五歲未滿		一、〇〇〇	一、〇〇〇
				六歲乃至十歲		一、〇〇〇	一、〇〇〇
				十一歲乃至二十歲		一、〇〇〇	一、〇〇〇
				二十一歲乃至三十歲		一、〇〇〇	一、〇〇〇
				三十一歲乃至四十歲		一、〇〇〇	一、〇〇〇
				四十一歲乃至五十歲		一、〇〇〇	一、〇〇〇
				五十一歲乃至六十歲		一、〇〇〇	一、〇〇〇
				六十一歲乃至七十歲		一、〇〇〇	一、〇〇〇
				七十一歲以上		一、〇〇〇	一、〇〇〇
				計		一、〇〇〇	一、〇〇〇
				對患者數 千分比例		一、〇〇〇	一、〇〇〇

「マラリア」患者種類別職業別年齢別三ヶ年表 (其二)

熱 日 隔				病 類 業 別 性 別 年 齡 別	年 別	計 合 計 計 女 男
合 計	其 他	商 工	農			
計 女 男	計 女 男	計 女 男	計 女 男			
一、八八七	五、三三二	一、八三三	二、三三七	五歲未満	大	一、八八七
九、八八七	四、五三二	一、一七二	二、三三七	至十歲	正	一、八八七
一、〇〇〇	三、三三三	一、一〇〇	二、三三三	至二十歲	六	一、〇〇〇
二、〇〇〇	三、三三三	一、一〇〇	二、三三三	至三十歲	年	二、〇〇〇
三、〇〇〇	三、三三三	一、一〇〇	二、三三三	至四十歲		三、〇〇〇
四、〇〇〇	三、三三三	一、一〇〇	二、三三三	至五十歲		四、〇〇〇
五、〇〇〇	三、三三三	一、一〇〇	二、三三三	至六十歲		五、〇〇〇
六、〇〇〇	三、三三三	一、一〇〇	二、三三三	至七十歲		六、〇〇〇
七、〇〇〇	三、三三三	一、一〇〇	二、三三三	七十一歲以上		七、〇〇〇
八、〇〇〇	三、三三三	一、一〇〇	二、三三三	計		八、〇〇〇
九、〇〇〇	三、三三三	一、一〇〇	二、三三三	對患者數 千分比例		九、〇〇〇

「マラリア」患者種類別職業別年齢別三ヶ年表 (其三)

五

總 熱 日 四				病 類 業 別 性 別 年 齡 別	年 別	計 合 計 計 女 男
其 他	商 工	農	合 計			
計 女 男	計 女 男	計 女 男	計 女 男			
一、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	六、〇〇〇	五歲未満	大	一、〇〇〇
二、〇〇〇	三、〇〇〇	四、〇〇〇	九、〇〇〇	至十歲	正	二、〇〇〇
三、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	十二、〇〇〇	至二十歲	六	三、〇〇〇
四、〇〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	十五、〇〇〇	至三十歲	年	四、〇〇〇
五、〇〇〇	六、〇〇〇	七、〇〇〇	十八、〇〇〇	至四十歲		五、〇〇〇
六、〇〇〇	七、〇〇〇	八、〇〇〇	二十一、〇〇〇	至五十歲		六、〇〇〇
七、〇〇〇	八、〇〇〇	九、〇〇〇	二十四、〇〇〇	至六十歲		七、〇〇〇
八、〇〇〇	九、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二十七、〇〇〇	至七十歲		八、〇〇〇
九、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一一、〇〇〇	三十、〇〇〇	七十一歲以上		九、〇〇〇
一〇、〇〇〇	一一、〇〇〇	一二、〇〇〇	三十三、〇〇〇	計		一〇、〇〇〇
一一、〇〇〇	一二、〇〇〇	一三、〇〇〇	三十六、〇〇〇	對患者數 千分比例		一一、〇〇〇

五〇

「マラリア」患者種類別職業別年齢別三ヶ年表 (其四)

計			總			熱		
合計		其他	商工		農	合計		其他
計	女	男	計	女	男	計	女	男
一、七七一	七六七	八八六	五五八	三六九	二八九	二〇九	一〇三	一〇六
一、七九四	八八八	九七六	七三三	三三七	三六八	三三三	一六九	一六四
二、五〇四	一、二五三	一、二五〇	八八九	四〇〇	四八九	五八五	二〇〇	三八五
一、七五九	七五九	一、〇〇〇	七三四	三三六	三六八	三三三	一五三	一八〇
一、二三四	四一九	七五七	四二二	一七三	二六九	二八三	一〇〇	一八三
七六八	三六九	四一九	三三三	一〇〇	二二七	三三三	一〇三	二三〇
四四九	二二六	三二二	二二二	七三	一四九	二七七	七六	一九九
三三三	一〇八	二二五	七〇	三〇	四〇	四八	三三	一六
一〇八	五三	五五	三三	一九	一四	二〇	九	一一
一〇、四三五	四、七九八	五、六三七	三、七三六	一、八九九	一、九二七	二、三三三	九九五	一、三八八
			三、九一四			四、四六六		
			三、九一四			四、四六六		

日			ア			マ			性		
其他		商工	農		合計	其他		商工	農	合計	
計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男
一	一	一	一	一	一	八	四	四	九	二	七
一	一	一	一	一	一	九	八	九	九	一	三
一	一	一	一	一	一	一	五	六	三	一	九
一	一	一	一	一	一	六	三	三	三	九	三
一	一	一	一	一	一	六	三	三	三	九	三
一	一	一	一	一	一	四	一	三	〇	四	六
一	一	一	一	一	一	三	九	三	三	二	一
一	一	一	一	一	一	三	九	三	三	二	一
一	一	一	一	一	一	六	四	三	四	一	四
一	一	一	一	一	一	五	四	一	二	二	一
四	三	一	三	七	五	五	三	三	〇	〇	〇
						五〇・一					

疾病 類別	業 別	年 次	總 計
五歲未満	六歲乃至十一歲	十二歲乃至十九歲	
二十歲乃至二十四歲	二十五歲乃至二十九歲	三十歲乃至三十九歲	
四十歲乃至四十九歲	五十歲乃至五十九歲	六十歲乃至六十九歲	
七十歲以上	計	對患者數 千分比例	

性 別		熱 日				合 計	其 他	商 工	農
商 工	農	合 計	其 他	商 工	農				
計 女	計 女	計 女	計 女	計 女	計 女	計 女	計 女	計 女	計 女
計 男	計 男	計 男	計 男	計 男	計 男	計 男	計 男	計 男	計 男
三、九 三、九 二、八	二、四 二、四 一、九	三、四 三、四 二、三	二、四 二、四 一、九	五、六 五、六 四、五	九、七 九、七 八、六	三、二 三、二 二、一	三、二 三、二 二、一	三、二 三、二 二、一	三、二 三、二 二、一
三、一 三、一 二、〇	一、八 一、八 一、三	四、九 四、九 三、八	三、七 三、七 二、六	八、六 八、六 七、五	二、八 二、八 一、七	一、七 一、七 〇、六	一、七 一、七 〇、六	一、七 一、七 〇、六	一、七 一、七 〇、六
三、一 三、一 二、〇	一、八 一、八 一、三	四、九 四、九 三、八	三、七 三、七 二、六	八、六 八、六 七、五	二、八 二、八 一、七	一、七 一、七 〇、六	一、七 一、七 〇、六	一、七 一、七 〇、六	一、七 一、七 〇、六
三、一 三、一 二、〇	一、八 一、八 一、三	四、九 四、九 三、八	三、七 三、七 二、六	八、六 八、六 七、五	二、八 二、八 一、七	一、七 一、七 〇、六	一、七 一、七 〇、六	一、七 一、七 〇、六	一、七 一、七 〇、六

總 計	熱 日					
	合 計	其 他	商 工	農	合 計	其 他
計 女	計 女	計 女	計 女	計 女	計 女	計 女
計 男	計 男	計 男	計 男	計 男	計 男	計 男
三、三 三、三 二、二	二、三 二、三 一、二	一、一 一、一 〇、〇	一、一 一、一 〇、〇	二、二 二、二 一、一	二、七 二、七 一、六	七、七 七、七 六、六
三、三 三、三 二、二	二、三 二、三 一、二	一、一 一、一 〇、〇	一、一 一、一 〇、〇	二、二 二、二 一、一	二、七 二、七 一、六	七、七 七、七 六、六
三、三 三、三 二、二	二、三 二、三 一、二	一、一 一、一 〇、〇	一、一 一、一 〇、〇	二、二 二、二 一、一	二、七 二、七 一、六	七、七 七、七 六、六
三、三 三、三 二、二	二、三 二、三 一、二	一、一 一、一 〇、〇	一、一 一、一 〇、〇	二、二 二、二 一、一	二、七 二、七 一、六	七、七 七、七 六、六
三、三 三、三 二、二	二、三 二、三 一、二	一、一 一、一 〇、〇	一、一 一、一 〇、〇	二、二 二、二 一、一	二、七 二、七 一、六	七、七 七、七 六、六
三、三 三、三 二、二	二、三 二、三 一、二	一、一 一、一 〇、〇	一、一 一、一 〇、〇	二、二 二、二 一、一	二、七 二、七 一、六	七、七 七、七 六、六
三、三 三、三 二、二	二、三 二、三 一、二	一、一 一、一 〇、〇	一、一 一、一 〇、〇	二、二 二、二 一、一	二、七 二、七 一、六	七、七 七、七 六、六

(第二號)

計	商工		其他		合計
	男	女	男	女	
計	計	計	計	計	計
四年正	二,九二九	二,八〇八	一,五〇〇	一,五〇〇	二,九二九
五年正	二,八〇八	二,七〇〇	一,五〇〇	一,五〇〇	二,八〇八
六年正	二,七〇〇	二,六〇〇	一,五〇〇	一,五〇〇	二,七〇〇
合計	八,四〇〇	八,〇〇〇	四,五〇〇	四,五〇〇	八,四〇〇
現在人口對マラリア患者千分比例	二五・九	二五・〇	一七・七	一七・七	二五・九

「マラリア」患者數現住人口對「マラリア」患者千分比例
 例「マラリア」死亡數

(第二號)

計	マラリア患者數		マラリア死亡數		現在人口對マラリア患者千分比例
	男	女	男	女	
計	計	計	計	計	計
四年正	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇	一〇	一〇
五年正	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇	一〇	一〇
六年正	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇	一〇	一〇
合計	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三〇	三〇	三〇

(第三號)

計	マラリア患者數		マラリア死亡數		現在人口對マラリア患者千分比例
	男	女	男	女	
計	計	計	計	計	計
四年正	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇	一〇	一〇
五年正	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇	一〇	一〇
六年正	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇	一〇	一〇
合計	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三〇	三〇	三〇

現住人口總死亡數人口對死亡數千分比例

(第三號)

計	現在人口		總死亡數		人口對總死亡千分比例
	男	女	男	女	
計	計	計	計	計	計
四年正	二,〇〇〇	二,〇〇〇	一〇	一〇	一〇
五年正	二,〇〇〇	二,〇〇〇	一〇	一〇	一〇
六年正	二,〇〇〇	二,〇〇〇	一〇	一〇	一〇
合計	六,〇〇〇	六,〇〇〇	三〇	三〇	三〇

(九) 埼玉縣

一、「マラリア」ノ蔓延狀態

本縣ニ於テハ特ニ蔓延ノ事實ヲ認メサルモ唯管内北埼玉郡利島、川邊ノ兩村ニ於テノミ流行ヲ反覆シ毎年五月ヨリ九月ノ候毎戸ニ罹患患者ヲ發生シ而カモ必スヤ家族ニ傳染シ附近交通者ニ及ホシ小學兒童ノ如キ夏季ノ候日々二三名ノ罹患患者ヲ出スノ狀況ナルモ不良ノ轉歸ヲ見ルモノナク重症ト雖モ四五日ニシテ全治シ輕症ニアリテハ僅カニ當日ヲ經過スルノミナリ

二、「マラリア」ニ關スル調査成績

最近三ヶ年ニ於ケル「マラリア」患者調査左表ノ如シ

三、「マラリア」病竈地ノ狀況ト住民ノ保健狀態

病竈地トモ認メラル、前記ノ地方ハ茨城縣古河町ニ近接シ東北ニ渡良瀬川南ニ利根川ノ二大河南ノ貫流ニ包圍スル低地濕潤ナル不衛生ノ農村ニシテ毎年ワイル氏病ヲ發生シ各所汚水停滯シ地沼點在水質極メテ悪シク濾過裝置ニ依テ飲用ニ供スルノ狀態ニテ衛生思想ハ低級ナリ從テ本病ヲ輕視シテ

俗ニ古河病ト稱シ醫療ヲ受クルモノ更ニナク却テ「マラリア」ニ罹ツテ百年ノ壽アリナト放言シ居レリ

一般ノ健康狀態ニ關シテハ具體的統計ヲ舉ケ難キモ特ニ注目スヘキ事實ナシ

四、「マラリア」病竈地ト無病地方トニ於ケル徵兵合格率ノ比較

今前記利島、川邊ノ兩村ト是レニ近接スル東、原道兩村ニ於ケル最近三ヶ年ノ徵兵合格率ヲ表示スルニ左ノ如シ

村名	年度			
	大正五年	大正六年	大正七年	平均
利島	二〇・〇	三四・八	二七・三	二七・三
川邊	二六・九	三六・七	二五・〇	二九・五
東道	四四・四	五〇・〇	二四・〇	三九・四
原道	二六・九	二九・二	三六・四	三〇・八

備考 本表ハ甲種合格百分率ナリ

七、將來ニ對スル計畫

來年度以降保健調査機關ヲ設置スルカ故ニ實地調査ヲ遂ケ一般的并ニ個人的豫防施設トシテ衛生設備ノ完成規尼ノ豫防的内服等適宜ノ手段ヲ行フ豫定ナリ

「マラリア」ニ關スル調査表

郡名	大正五年		大正六年		大正七年	
	患者數	死亡數	患者數	死亡數	患者數	死亡數
北足立	一〇五	三	一一八	—	九八	—
入間	五六	—	五〇	—	三〇	—
比企	四	—	九	—	六	—
秩父	—	—	—	—	—	—
兒玉	—	—	—	—	—	—
大里	三二	—	四〇	—	三	—
北埼玉	八三一	—	一一二	—	八六九	—
南埼玉	三〇	—	三八	—	二八	—
北葛飾	三八	—	四一	—	四八	—
合計	一、一〇二	六	一、五二三	一	一、一一二	三

(一〇) 群馬縣

一、「マラリア」ノ蔓延狀態

(イ) 本病ノ歴史

本縣下本病ノ流行地ト認ムルハ邑樂郡ノ東部ニシテ同地方ニ於ケル本病ハ何時頃ヨリ存在セシカ不明ナリ傳説ニヨレハ弘化二年十一月秋元但馬守志朝山形ヨリ國替トナリ館林町ニ移住シ來リシ當時藩士中「マラリア」ニ罹病シ死スルモノ多カリシト云フヲ以テ推スレハ本病ハ往昔ヨリ存在セシモノナルヲ窺知シ得ヘシ從テ今ヤ地方民ハ本病ニ就テ左程恐怖セス寧ロ罹病ハ免レサル處ト誤解シ何等ノ豫防的施設ヲ試ミス且ツ本病ニ對スル智識殆ント零ニシテ輓近「キニーネ」ノ有効ナルヲ知得シアリト雖モ服用方法ニ誤リアルヲ以テ効果的確ナラス却而發作ヲ不定型ニ陥ラシメ經過ヲ不良ナラシムルヲ以テ終ニ療養ヲ疎慢ニシ偏ニ迷信的行爲ヲ試ムルニ至リタルノミナラス本病ヲ急速ニ頓挫セシムルハ却而有害ナリトテ數回ノ發作後ニアラサレハ治療ヲ加ヘサルノ弊習ヲ醜醜スルニ至レリ

(ロ) 蔓延狀態

本病蔓延ノ最モ濃厚ナリト認メラル、村ハ左表ニ示スカ如ク郡内東部西谷田、伊奈良、大筒野、大島、海老瀬、郷谷、赤羽、千江田、六郷、波瀬ノ十ヶ村ニシテ他町村ハ目下少數患者ノ發生ヲ免ルノミナリト雖モ郡内二十二ヶ町村中本病絶無ノモノハ極メテ少數トス

西谷田村ノ如キハ住民三分ノ一ハ罹病シ一夏中ニ三四回罹病スルモノアリト云フモ這ハ再發ナルヤ

不明ナリ

(ハ) 地 勢

本病流行地方ハ所謂湛水地ト稱セラレ東ハ渡瀬川南西ハ利根川ニテ圍繞セラレアルヲ以テ夏秋ノ候降雨連續スルヤ忽チ河水滯流シテ永ク湛水池ト化スルニ至ル左ナキタニ本地方ハ水用地ニシテ内ニ板倉沼、城沼、多々良沼ノ三大沼地ヲ抱擁シアルノミナラス灌漑用水縱横ニ貫通シ土地ノ高低僅微ナルヲ以テ大小ノ湛涵地多ク蚊族ノ發生ヲ補長シツ、アリ且ツ本地方ハ竹藪ニモ適シアルヲ以テ各戸廣大ナル竹藪ヲ有シ尙ホ防風ノ爲メ宅地内ニ樹木ヲ密生セシメアルヲ以テ湛水ト相俟ツテ蚊族ノ發育ヲ容易ナラシムル状態ニアリ

(二) 蚊種類

蚊ノ種類ニ就テハ未タ調査シアラス曩ニ小學校ニ對シ之カ捕獲ヲ依頼セシモ終ニ目的ヲ達セス今日ニ及ヒツ、アリ然レトモ恐ラク蚊族中ノ三分一ハ「アノフェレンス」ナルカ如シ而シテ本地方ハ蚊ノ發生夥多ニテ日没後ニ至レハ蚊帳中ニアラサレハ夕食スル能ハサルノ有様ナルニ拘ラス地方人ハ何等防蚊ノ方法ヲ講セス

(三) 蔓延ノ原因

本病ハ往昔ヨリ存在セシコトハ明ナル事實ナリト雖モ今日ニ至ル迄何等ノ豫防的施設ヲ講セス放任シアリタル關係上累年患者數増加シ如斯濃厚ナル「マラリア」有病地ト化セシモノト認メラル然レトモ大正五年以降縣ニ於テ豫防的服業ヲ試験シ同時ニ本病ニ關スル印刷物ノ配布講話町村役場ニ於ケル鹽酸「キニーネ」廉價下渡等ヲ行ヒタル結果大正六年ハ大正五年ニ比較シ著シク患者數ヲ減少シ得タリト雖モ大正七年ハ却而又患者數増加シタルハ遺憾トスル處ニシテ爾後一層ノ努力ヲ要スルモノト認ム

一、「マラリア」ニ關スル調査成績

本調査ニ就テハ專ラ所轄警察署ニ指示シ駐在巡查ヲシテ調査セシメタリ
今別表ニ示スカ如ク大正二年ヨリ大正四年ニ至ル三ケ年間ノ患者發生狀況ハ西谷田、伊奈良、大ケ野、渡瀬、大島、赤羽ノ六ケ村ニ在テ熾盛ヲ極メ一ケ年平均千八百八十一人ノ割合ナリシモ翌大正五年ニ至リ三千六百十九人ニ達シ以來多少ノ消長アリト雖モ概シテ逐年増加ノ傾勢ニアルハ遺憾トスル處ナリ最モ本調査ハ大正五年矯メテ着手セシヲ以テ其ノ以前ニ於ケル患者數ニ就テハ果シテ正確ナルヤ多少ノ推考ヲ要スヘキモノト認ム患者發生ノ月別ニ就テハ盛夏七、八月ノ候ヲ最多トスルモ十二月、一月、二月ノ如キ極寒季ニ在テ發病スルモノアリ如此患者ハ要スルニ破格ナル長潜伏期ヲ有セシカ或ハ再發性ノモノナルヤ不明ナリ學齡兒童並ニ其ノ以前ノ小兒ヲ合シタル患者數ハ比較

的多ク左表ニヨレハ總患者四千七百十一人ニ對シ千十九人ナリ地方ノ習慣トシテ夏季農繁時ニハ小兒ヲ夜ニ至ルマテ屋外ニ外遊セシメ或ハ夕食後假睡スルモ放置シテ蚊帳内ニ臥セシムルコトヲ懈リ蚊ノ刺螫ヲ防禦セサル等ノ關係ニ於テ如此多數小兒ノ罹病者ヲ見ル以所ナルヘシ

(第一表)

町村名	「マラリア」患者累年比較					大正七年現住人口 (警察署調査)
	自大正二年至四年	大正五年	大正六年	大正七年		
館林町	三五	三〇	二	二一	一一、五六三	
小泉町	一四	九	四	五	五、〇五四	
渡瀬村	四一九	二〇一	三七	五二	三、二四〇	
大島村	一一二	二七三	一六二	五五二	二、二一九	
西谷村	二、二三八	二九〇	二九	八五七	三、七五六	
海老瀬村	一七〇	九八	一二三	三三九	二、二七六	
郷谷村	一四二	二一〇	一四九	五二一	二、二六八	
大野村	五八二	三二七	一七〇	一一四	二、二五三	
伊奈野村	一、五六四	八八三	八七五	一、八四八	六、五八四	
赤羽村	一〇四	二六	四五	一一〇	四、五四九	
千江田村	四六	九四	八六	一七五	三、一九一	
梅島村	一八	三三	七	九	二、三八三	

(第二表)

町村別	計	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
佐貫村	二七													二、七六五
六郷村	四九													三、五七六
三野村	三〇													二、九九一
富永村	一五													三、六〇一
大川村	九													四、六三五
長柄村	一五													三、六二一
高島村	四													三、五六九
中野村	九													二、九三九
多々良村	二六													四、八九五
計	五、六四三	三、六〇九	二、一三四	四、七一一	八、八、三三五									

「マラリア」患者發生月別

(大正七年)

町村別	區分	月別												
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
館林町	林													二一
小泉町	泉													五
渡瀬村	瀬													五二
大島村	島													五五二
四谷田	谷													八五七
計		四	七	一五	三三	二七	九	二七	二九	八	一四	三	四	六

町村名	學齡兒童	入學前兒童	同上以外一般	計	小兒患者計
館林町	二	二	二	二	一
小泉村	二	二	二	二	一
渡島村	二	二	二	二	一
六谷村	九	三	四	一六	二
海老谷村	一七	五	一八	三九	二
四谷村	一七	五	一八	三九	二
大谷村	八	三	九	一六	一
郷谷村	五	三	六	一四	一
赤羽村	一	一	二	四	一
伊豆野村	一	一	二	四	一
千代田村	二	一	三	六	一
梅田村	一	一	二	四	一
佐野村	一	一	二	四	一
三谷村	一	一	二	四	一
富永村	一	一	二	四	一
大川村	一	一	二	四	一
長柄村	一	一	二	四	一
高島村	一	一	二	四	一
中野村	一	一	二	四	一
多野村	一	一	二	四	一
六野村	一	一	二	四	一
計	六六〇	三八九	三、六六二	四、七一一	一、〇四九

六九

(第三表)

「マラリア」患者中學齡者ト一般者トノ比較

(大正七年)

町村名	學齡兒童	入學前兒童	同上以外一般	計	小兒患者計
海老谷村	三	四	一〇	一七	三
大谷村	一	一	一	三	一
郷谷村	一	一	一	三	一
赤羽村	一	一	一	三	一
伊豆野村	一	一	一	三	一
三谷村	一	一	一	三	一
六谷村	一	一	一	三	一
佐野村	一	一	一	三	一
梅田村	一	一	一	三	一
千代田村	一	一	一	三	一
江田村	一	一	一	三	一
野島村	一	一	一	三	一
多野村	一	一	一	三	一
中野村	一	一	一	三	一
高島村	一	一	一	三	一
計	四七	五三	六〇	一〇七	三三

六八

三、「マラリア」病竄地ノ狀況ト住民ノ保健狀態

本病流行地地理的的狀況ノ概要ハ邊ニ記述スル處アリシヲ以テ茲ニハ專ラ住民ノ保健狀態ニ就テ陳ヘントス然レトモ事勿卒ニ屬シ有病各村ニ涉リ周ネク調査スル違ナキヲ以テ就中流行熾盛ナリト認ムル西谷田及伊奈良ノ二村ニ就キ其概要ヲ調査シ以テ一般ヲ窺知セント欲スルニ過キス即チ參考トシテ第一表第二表並ニ既往四ケ年死亡原因表ヲ添付ス

但シ本項ニ對スル相像的説明ハ動モスレハ正鶴ヲ失ヌルノ虞アルヲ以テ省略シ賢斷ニ俟ツ

(第一表)

西谷田村既往四ケ年生産死亡對照 (村役場ニ就テノ調査)

年次	現住人口	死亡	出生	産	現住人口千ニ對スル死亡	現住人口千ニ對スル生産	生産超過
大正四年	四、〇〇〇		一七五	一九〇	四三・七五	四七・五〇	三・七五
同五年	四、〇五九		九五	二二四	二三・一六	五二・七二	二九・五六
同六年	四、〇〇三		八六	二二〇	二一・四八	五二・四六	三〇・九八
同七年	四、〇〇〇		九二	一七五	二三・〇〇	四三・七五	二〇・七五
未推定			十二月二十三日現在				

伊奈良村既往四ケ年生産死亡對照

(村役場ニ就テノ調査)

年次	現住人口	死亡	出生	産	現住人口千ニ對スル死亡	現住人口千ニ對スル生産	生産超過
大正四年	六、〇五五		一一八	二九六	二一・二四	四八・九九	二七・六五
同五年	六、一五九		一三三	二三三	二一・五九	三七・八三	一六・二四
同六年	六、二三九		一七	二一八	一八・七五	三四・九四	一六・一九
同七年	六、二三九		一一	二七四	二一・〇〇	四三・九二	二二・九二
未推定							

一、人口ハ警察署調査ト一致セス

二、生産死亡ハ現住者ニ就テ調査シタルモノニシテ村外移住者ヲ除外ス

(第二表)

既往五ケ年縣下死亡生産對照

年次	死亡	現住人口千ニ對スル死亡	總 生 産	現住人口千ニ對スル生産	生産超過
大正元年	二〇、四五三	二〇・四三	三七、二三九	三六・九六	一六・五三
同二年	二〇、〇八三	一九・七三	三七、五五二	三六・八九	一七・一六
同三年	二二、〇四八	二一・三五	四〇、二九六	三九・〇二	一七・六七
同四年	二二、九六五	二一・〇七	三九、四九六	三八・二五	一七・一八
同五年	二二、一〇五	二一・七八	三九、八八一	三七・五九	一五・八一